

現状と課題

[制度面]

- 1 不起訴又は無罪等となった者のうち、約4割は措置入院の対象となる症状なし。
- 2 責任能力の判断に関する鑑定の信頼性に疑問が提起されている。
- 3 被害者等が、対象者の処遇の決定過程を知ることができない。

[医療面]

- 1 入退院の判断が知事(事実上はその委任を受けた医師)に委ねられている。
- 2 入院先の医療機関の体制の違い等により、医療の提供にバラツキがある。
- 3 退院後の処遇を確実に継続させるための実効ある仕組みがない。

4

与党プロジェクトチーム報告書(平成13年11月)

- ① 新たな処遇決定手続きを創設すること
- ② 対象者の処遇施設を整備すること
- ③ 退院後の体制を確立すること
- ④ 司法精神医学の研究・研修体制を充実強化すること

5